一人一人が未来の創り手となる豊かな学びの創造
－ 学校教育目標の実現につながる資質・能力を育む カリキュラム・マネジメント －

指導主事　林田　祐二　　研究協力校　玉名市立玉水小学校

１　カリキュラム・マネジメントについて

「カリキュラム・マネジメント」とは，「学習指導要領を受け止めつつ，子どもたちの姿や地域の実情等を踏まえて，各学校が設定する学校教育目標を実現するために，学習指導要領に基づき教育課程を編成し，それを実施・評価して改善していくこと」[1)]であり，「児童や学校，地域の実態を適切に把握し，（中略）教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと」[2)]である。この「カリキュラム・マネジメント」は，以下の３つの側面からとらえることができる[3)]。

側面ⅰ：各教科等の教育内容を相互の関係で捉え，学校教育目標を踏まえた教科等横断的な視点で，その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していくこと

側面ⅱ：教育内容の質の向上に向けて，子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき，教育課程を編成し，実施し，評価して改善を図る一連のＰＤＣＡサイクルを確立すること

側面ⅲ：教育内容と，教育活動に必要な人的・物的資源等を，地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせること

また，中央教育審議会「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」には，「管理職のみならず全ての教職員が「カリキュラム・マネジメント」の必要性を理解し，日々の授業等についても，教育課程全体の中での位置付けを意識しながら取り組む必要がある」[4)]とある。「全ての教職員が教育課程全体の中での位置付けを意識しながら取り組む」ための中心となるのは，各学校で位置付けられている「学校教育目標」である。しかし，現状では，個々の教職員が個別に教育活動に取り組む傾向が強く，学校教育目標の実現について，あまり意識していないという課題が報告されている[5)]。

そこで，本年度，学校教育目標の実現につながる育てたい力を設定し，キーワード化やワークショップ等の取組を通じて，個々の教職員が学校教育目標について更に認識を深め，自分の校務分掌や授業とのつながりをより意識できるようになれば，カリキュラム・マネジメントの側面ⅰ～側面ⅲを実現し，効果的・効率的に学校組織をマネジメントできるのではないかと考え，研究協力校である玉名市立玉水小学校の協力を得て研究に取り組んだ。

２　カリキュラム・マネジメントの実際

学校教育目標を意識化し，様々な教育活動の実践につなげるために，次のような取組を行った。

(1) 学校教育目標の意識化

①　学校教育目標のキーワード化

様々な実践の目標の設定や評価において学校教育目標の位置付けを意識しやすくするために，目指す児童像から「育てたい３つの力」を設定し，キーワード化して提示した。

「目指す児童像」	→「育てたい３つの力」（キーワード化）
思いやりのあるやさしい子	→【共感力】
自分で考え頑張る子	→【考動する力】
丈夫な体でやり抜く子	→【やりぬく力】

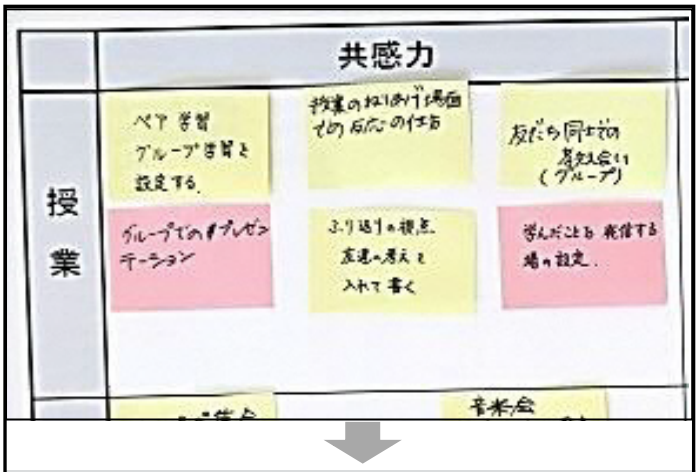
②　「育てたい３つの力」と実践事項の可視化

学校教育目標の実現につながる【共感力】【考動する力】【やりぬく力】の「育てたい３つの力」を全児童に身に付けさせるために，具体的な実践事項について，全教職員で考えを出し合うワークショップの場を設けた。

低学年，中学年，高学年の３グループに分かれて，学習面，生活面，学校行事の場面における実践事項を出し合った。ワークショップの結果，授業場面における振り返りの場で「友達のことを記述する視点を盛り込む」等の，具体的な取組案が明確になった。

図１　実践事項を明確にするワークショップ

それぞれのグループで出た内容を共通理解した後，管理職が各グループの案を分析した。「育てたい３つの力」と学習，生活，学校行事の場面それぞれに，出された考えをキーワードで類別し，一覧表にまとめて全教職員に提示した。例えば，【共感力】の学習場面では，「学習形態」「学習支援」「交流活動」「振り返り」のキーワードで類別した。



平成29年度　学校教育目標の具体化に向けた実践事項

	共感力	
	キーワード	具体的実践内容
学習面	学習形態	・友達の考えの良さに目を向けさせるグループ学習の設定 ・ペア学習、グループ学習等の設定 ・友達同士での教え合いの場の設定 ・グループでのプレゼンテーション活動の設定 ・学んだことを発信し合う場の設定
	学習支援	・授業で悩んでいる子に対しての児童同士のアドバイス促進 ・学習課題が終わった児童による教え合い活動促進
	交流活動	・友達の考えを説明する活動の設定 ・授業の練り上げ場面での反応（返し）の仕方を提示 ・互いの作品の良さを発表し認め合う場の設定 ・学年を越えての共同制作、鑑賞会の実施
	振り返り	・振り返りの場の設定 ・振り返りの視点の提示 ・児童同士の意見交流を通した自己の考えの再構築

図２　ワークショップで出た実践事項のまとめ（抜粋）

このワークショップを通して全教職員で話し合ったことや一覧表で提示し可視化したことで，学校教育目標をより意識した実践につながりつつある。

③　マネジメントシートを活用した実践（側面ⅱ）

学校教育目標の意識化を図るために，児童集会や教職員研修でマネジメントシートを活用し，目標設定や教育活動に生かした。

ア　職員個々の具体的取組事項の設定

まず，教職員自らが「自分で考え行動する」を意識するために，現在の状況（強み弱み），１年後または数年後のありたい姿，そして，その姿に近づくための具体的取組事項を，人事評価と関連付けて考えるようにした。期末面談で確認するなど，教職員自身が成長に合わせて，修正しながら活用を図った。

イ　児童会活動

年度初めに，企画委員会でマネジメントシートを用いて，玉水小の児童の現在の状況（強み弱み）を明らかにし，「自分たちがなりたい姿」を話し合った。

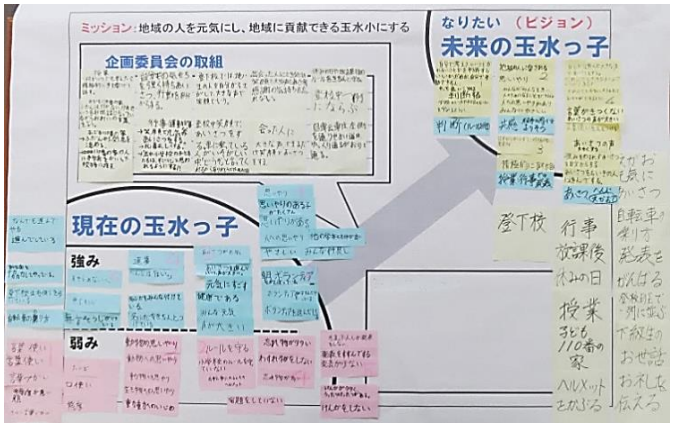


図３　企画委員会が作ったマネジメントシート

さらに，「地域の人を元気にし，地域に貢献できる玉水っ子になろう」というミッションで，企画委員会としてどのような活動ができるかアイディアを出し合った。その後，各学年の意見を追加し，作り上げた。その結果，「子ども１１０番の家訪問」や「ひまわりプロジェクト」等を行うこととなった。

「ひまわりプロジェクト」は，３年生が育てたジャンボひまわりの種１万２千個を校区に配付し，春から夏にかけて校区をひまわりでいっぱいにすることで，地域の皆さんを元気付けるというものである。現在，企画委員会と３年生がタイアップして全校児童で種を配付する活動に向けて準備が進みつつある。

ウ　学級経営

児童の目標設定にもカリキュラム・マネジメントの考え方が広がればという思いを持ち，マネジメントシートの活用を提案した。高学年で実践できればと考えていたが，２年生が先頭に立って取り組んだ。

前期の実践では，育てたい力と児童の取組内容のつながりは十分ではなかった。しかし，前期の目標

を振り返ったことや担任の指導により，後期には，「育てたい３つの力」と児童が設定した取組がしっかりとつながったものが増えた。

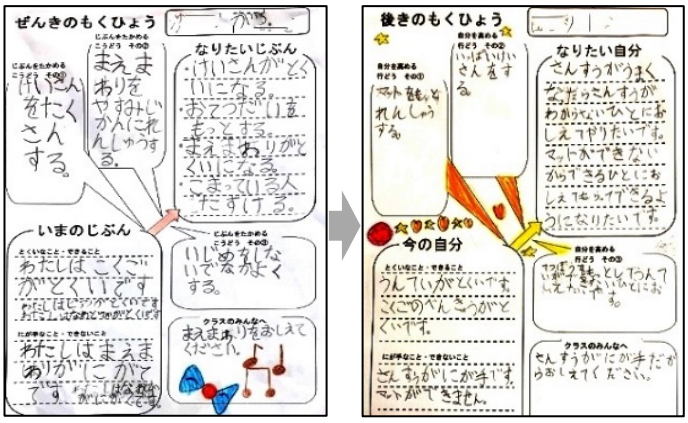


図４　児童の前期・後期の目標設定シート例

また，他の学年においても，後期からマネジメントシートを簡略化し，自分のありたい姿から目標を設定したり，「育てたい３つの力」につなげて目標を設定したりする学級が増えた。このような目標設定が定着していくと，自分で考え行動する力の育成につながっていくと考える。

④　ミドルリーダーによる推進

学校経営の要となる教務主任や研究主任等のミドルリーダーに，学校教育目標を具現化するための各種計画作成や実践において，「育てたい３つの力」を重点化する方向で校務を推進してもらうようにした。様々な実践を行うための計画を立てる際に，「育てたい３つの力」が目標に盛り込まれているか，また，実施後に児童の姿で評価できるかについて根気強く担当者と話を重ねて意識化を図った。そのことで，学校教育目標の意識化が教職員全体に広がるようにした。

ア　「育てたい３つの力」の学校行事への位置付け

年度途中から，学校行事の実施計画書を提案する際に，「育てたい３つの力」を目標に位置付け，実践後に取組を評価，改善点を出し合うようにした。

表１　学校行事（音楽会）の計画と取組の反省（部分抜粋）

１　目的 （３）互いに支え合って演奏することを通して集団づくりに努めるとともに，他校との交流を図る。【共感力】
（取組の反省） 【共感力】 ・学年練習では，グループで教え合う時間を作り，演奏できる部分を増やすようにした。 ・多目的教室に楽器を置いたことで，朝の登校後や業間，昼休みに自主的に練習するようになった。各パートがいないと演奏しにくく，かけ合いの曲にしたため，自然と３年生と４年生が一緒に練習するようになった。 ・３年担任は４年生を，４年担任は３年生を意識的にほめることで，学年部全体としての雰囲気作りができた。

取組の改善点は記録に残し，翌年度へのプランを作成して保管するようにした。

最初は，管理職が教職員にアドバイスしながら進め，教務主任が，一連の PDCA の推進を担当した。

その結果，学校行事において「育てたい３つの力」を意識した取組が実践できつつある。

イ　「育てたい３つの力」の授業への反映

研究主任が中心となって，「育てたい３つの力」につながる児童に身に付けさせたい力をワークショップで共通理解した。

「身に付けさせたい力」
低学年：進んで学ぼうとする力，聞く力，
　　対話する力
中学年：表現力，比較する力
高学年：学びに向かう力，共感力，対話力

設定したそれぞれの力を，指導案に位置付けるようにした。また，授業評価において，児童に「育てたい３つの力」が身に付いたかを評価するとともに，学習終末に「友達との関わりを記す」等の「振り返りの視点」を提示し，児童が振り返る場を設定した。

展開27	２　課題に取り組む。 (1) 自力解決で自分の考えをもつ。 ・ブロック操作	能動型学習（ポイント） ◎「はじめに」「つぎに」「そのつぎに」の言葉を意識させ，各自考える時間を確保する。（視点５①） ◎計算ブロックを使い考えさせ，考え方が分からない場合は，友だちのやり方を参考にさせる。 ＜進んで学ぼうとする力＞

図５　身に付けたい力の指導案中への位置付け例

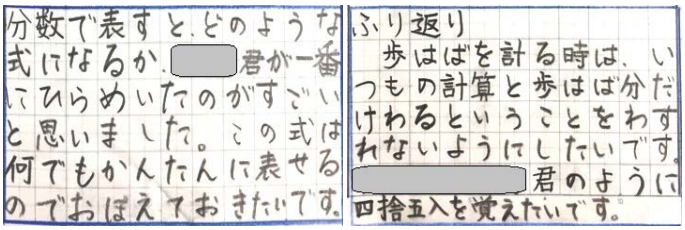


図６　児童の振り返りの記述例

ウ　教科等横断的・地域人材活用の授業（側面ⅰ・ⅲ）

教科等横断的な視点で，「育てたい３つの力」を育む授業に取り組んだ。

第４学年では，【共感力】に関する教育指導計画をもとに，「生命」「福祉」「仲間作り」「自分の成長」をキーワードに，実践期間もできるだけ近づけた取組を行った。その中で，「生命」に関する取組では，社会科「火事や事故からくらしを守る」で有明消防天水分署と連携したことや国語「一つの花」，道徳「不思議の不思議」，人権学習「おっちゃん，ありがとう」等において，教材の登場人物や関係する人々と自分

との関わりを見つめ，「自他の生命への思い」で教科等横断的に【共感力】を高める実践へとつないだ。

さらに，「福祉」に関しては，校区内の「てんすい倶楽部（介護老人保健施設）」や社会福祉協議会と連携して，お年寄りやお年寄りを支える人々の思いに触れる学習を国語，玉名学（玉名市独自の教科・文部科学省指定：学級活動，総合的な学習の時間との関連），道徳の教科を横断した実践を行った。

図７　外部の教育資源を活用した教育活動

学習後，児童のお礼の手紙や学習の感想の中には，「お年寄りの気持ちや支えている方々の命を大切にする思いを知ることができてよかった」といったものがあり，【共感力】の高まる豊かな学びができていることを実感できた。

(2) 評価と改善（側面ⅱ）

カリキュラム・マネジメントのＰＤＣＡサイクルの重要なポイントである評価と改善について，主に次のような取組を行った。

①　教職員の意識の変容（７月→１２月）

教育活動評価において，学校教育目標につながる「育てたい３つの力」の視点で教職員の意識調査を行った（４件法）。

表２　教職員の意識調査の結果

意識調査項目	7月	12月
思いやりのあるやさしい子（姿）に近づいたか。【共感力】は高まったか。	2.9	2.9
自分で考え頑張る子（姿）に近づいたか。【考動する力】は高まったか。	2.5	2.8
丈夫な体でやり抜く子（姿）に近づいたか。【やりぬく力】は高まったか。	2.8	3.1

本年度，特に力を入れた【共感力】は継続的に高い水準を保ち，他の力については更に高まった。教職員が学校教育目標を意識した取組に対する成果を感じ取っていることが分かった。

②　校内研修における授業評価と改善

校内研修における研究授業を中心に，授業評価項目において全教職員で授業を評価し，改善策を出し合った。「育てたい３つの力」と関連付けた視点で改善点を出し合うことで，研究授業だけでなく，日常の授業改善につながっていった。

③　年間指導計画の改善

【共感力】【考動する力】【やりぬく力】について重点化したキーワードを設定し，教科等横断的な視点で配列した年間指導計画を作成した。本年度は，【共感力】から年間指導計画の改善を試みた。実践の前後に教科等間のつながりや時期，内外の教育資源の活用は適切かを担任と管理職とで検討し，年間指導計画を見直した。キーワードを明確にして教科等間をつなぐことで，学校教育目標の達成につながる見通しを担任が持つことができた。

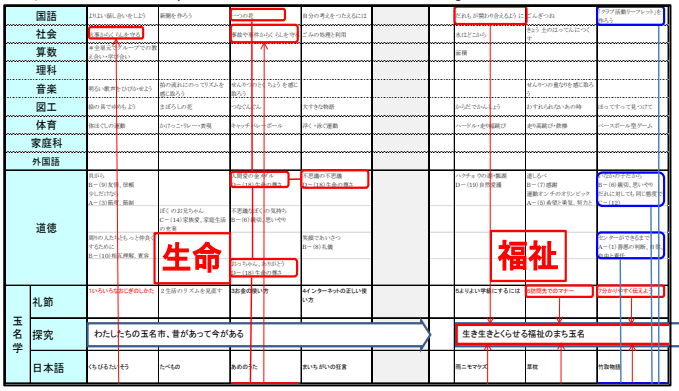


図８　【共感力】「生命」「福祉」でつないだ年間指導計画

３　まとめ

本年度は，学校教育目標の意識化を中心に取組を行った。玉水小学校では，学校教育目標を意識化し，カリキュラム・マネジメントを組織的に推進する具体的な手法が明らかになった。

カリキュラム・マネジメントの推進では，教職員が日常の活動の中で，学校教育目標を意識して取り組めるかが重要となってくる。玉水小学校のように教職員の学校教育目標に対する意識化が進むと，協働的な取組や主体的な活動に高まっていくと考えられる。

今後，学校教育目標を基にしたカリキュラム・マネジメントによって，教育課程が継続的に見直され，学校内外の連携が更に拡充することで，より効果的・効率的に学校組織をマネジメントできるようになり，児童の豊かな学びにつながると思われる。

《引用・参考文献》

1）文部科学省(2016)『幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善及び必要な方策等について（答申）』p.23
2）文部科学省(2017)『小学校学習指導要領』p.4
3）文部科学省(2016)『幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善及び必要な方策等について（答申）』p.23
4）中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会（2016)『次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ』p.21
5）田村知子・村川雅弘・吉冨芳正・西岡加名恵(2016)『カリキュラムマネジメント・ハンドブック』p.64 ぎょうせい